

# 可能性を秘めた山梨で、働き・暮らす

山梨は、東京圏に隣接しながらも豊かな自然に恵まれ、高い品質を誇る農産物や優れた技術を持つ産業などの地域資源に溢れています。また、中部横断自動車道やリニア中央新幹線の整備によって、さらなる発展が期待されるなど、山梨は大きな可能性を秘めています。こうした中、県では、誰もが「山梨で、働きたい・暮らしたい」と思える環境づくりに向け、さまざまな取り組みを行っています。



## 山梨で生きがいを見つける

豊かな自然環境や交通の利便性の高さなどから、山梨は移住希望地として人気があります。そこで今回は、41年前に八ヶ岳南麓（北杜市大泉町）に移り住み、「人と自然の仲のいい関係」を築いた俳優の柳生博さんが、山梨で生きがいを見つけて暮らす魅力を語ってくれました。

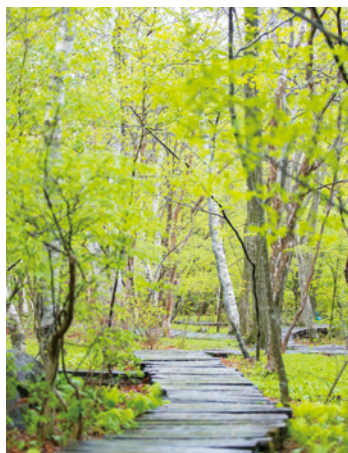
## 大いなる山懐に抱かれて、森に学ぶ

40歳の時、年間700本以上のテレビの仕事をしていたので、家族と過ごす時間がなく、家族に辛い思いをさせてしまったり、私自身、精神的にバランスを崩しかけたりしました。このままではいけない、いつそ役者をやめようかと思ったとき、子どもの頃、祖父によく言われていた言葉を思い出しました。「グジグジしているとき、何かを決めかねているときは、野良仕事をしなさい。野良仕事は、野が良くなる仕事だ」という言葉です。私は妻と2人の息子を連れ、ここ八ヶ岳南麓で暮らし始めました。41年前のことです。当時のこの辺りは荒れ果てた人工林でしたが、もともとあった雑木林にしようと、家族と共に落葉広葉樹を植えてい



きました。私たちは、時間をかけて本来の山の姿に戻したんです。そして30年前には「八ヶ岳の麓で共に遊びましょう」をコンセプトとした「八ヶ岳倶楽部」をつくり、若手芸術家たちの作品のお披露目の場としました。作品を





「季節の移り変わりが体感できる素晴らしい自然環境の中で暮らし、仕事をし、子どもを育て、人生を全うする。それは人間としてとても豊かなことですよ」と優しい笑顔で語る、今年、81歳になった柳生さん

柳生さんが40年かけて育てた自慢の雑木林

俳優

## 柳生 博さん Hiroshi Yagyu

1937年茨城県生まれ。

東京商船大学に進学するも、視力低下により船長になる夢を断念。その後、俳優座養成所に入り、1961年、映画「あれが港の灯(ひ)」で俳優デビュー。以来、俳優やナレーション、司会者として活躍。

私生活では、41年前に八ヶ岳南麓に住まいを構え、雑木林をつくり、「八ヶ岳倶楽部」をオープン。『森と暮らす、森に学ぶ』など著書多数。財団法人日本野鳥の会会長も務めている。



八ヶ岳倶楽部のギャラリーでは、八ヶ岳南麓に移住してきた芸術家の展覧会などを行っている。写真は八ヶ岳倶楽部の社長である息子の宗助さんと



私の息子はもちろん、7人の孫たちもここで育ちました。最近では、若い世帯の移住者が増え、学校帰りの子どもたちが道草をしながら、はしゃぐ姿もよく見かけますよ。素敵な大人になるためには、子どもの頃に自然の中でさまざまな体験をすることが大切です。

私は、みんなが家族のようにつながっているのが大好きです。人と人、人と自然が共に生きる環境がある山梨だから健康寿命も長く、子どもからお年寄りまで、みんなが生き生きと暮らしていけるのでしょうね。山梨には、都会ではできない仕事があり、自然と共存した暮らしができます。素晴らしい自然環境に生まれ、都会に近く利便性も高い山梨は、実に大きな可能性を秘めていると思います。

山梨の皆さんも、もっと山梨を好きになり、「山梨で、働き・暮らすこと」に、改めて誇りを感じてほしいです。

紹介してきた芸術家の中には、山梨に魅せられてこの周辺にアトリエを構え、創作活動にいそしんだり、山梨暮らしを楽しんだりしている方もいます。八ヶ岳倶楽部のスタッフも移住者がほとんどで、「働くこと・暮ら

**山梨に住んでいることを誇りに思ってもらいたい**

すこと」に充実感を持っているようです。南アルプスや富士山に見守られ、八ヶ岳に抱っこされているような感じがするこの場所は、誰もが自然と開放的になれる、そんな魅力に溢れていると思います。

山梨暮らしは最高だよ!



動画で見てみよう! 柳生 博さんのインタビュー

①スマートフォンまたはタブレットに「Layar」のARアプリをダウンロード(無料)②アプリを起動③左の写真にかざした後、タップすると動画が再生されます。

ar  
Layar (レイヤー)



甲府盆地を南北に走る中部横断自動車道



リニアと桃源郷



## 山梨で働きたい・暮らしたいと思える 環境をより充実していくために

豊かな自然に恵まれている山梨には、全国有数の生産量を誇る果樹をはじめとした農業、ワイン・ジュエリー・織物といった地場産業、さらに、豊かな森林を活用した林業など、地域資源を生かした多彩な産業があります。また、昭和57年の中央自動車道全線開通を契機に、機械電子産業が山梨の基幹産業へと成長し、今では、山梨の経済をけん引しています。

こうした中、県では、山梨をさらに活

性化していくため、全国トップレベルの支援制度により企業立地を促進するとともに、さまざまな分野で積極的に活動している県内企業が新分野へ参入しやすいように、研究開発のサポートや技術支援などを行っています。また、県内における起業を促進するため、山梨の地域資源を生かしたビジネスアイデアコンペを実施したり、女性の起業をサポートしたりするなど、地域に根差した新しい事業の創出にも力を入れています。

2年後には中部横断自動車道南部区間の全線開通、9年後にはリニア中央新幹線の開業が予定されています。こうした交通アクセスの飛躍的な向上により、山梨は今後、大きく発展していく可能性を秘めています。

また、移住希望地ランキングでは常に全国トップクラスであり、東京にある、山梨への移住相談の窓口「やまなし暮らし支援センター」には、多くの相談が寄せられるなど、山梨は暮らしてみたいと思わせる魅力に溢れています。

県では、今後も、産業の活性化を図り、誰もが生涯にわたり生きがいを感じながら働きたいと思える環境づくりを進めていきます。

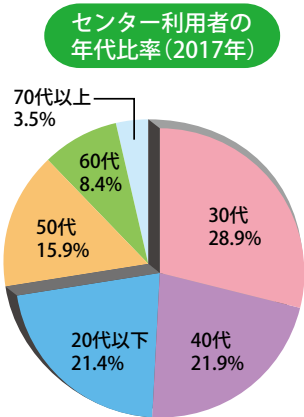


# 山梨の持つ、大きな可能性について 有識者から聞く

各分野の有識者が県の直面する諸課題について話し合う「やまなし未来会議」の委員でもある、山梨中銀経営コンサルティング経済調査部長・岡本新一さんに、データを踏まえながら、移住希望地としての人気の高さ、健康寿命の長さ、そして、立地条件の良さなどに秘められている山梨の可能性について、お話を伺いました。

## 移住希望地ランキングで 全国上位につける

NPO法人ふるさと回帰支援センターによる移住希望地ランキングを見ると、山梨は常に長野と1位、2位を競っています。最近では価値観の多様化に伴い、ずっと都会で暮らすのではなく、地方への移住を検討する人が急増しています。一般的に、移住は退職後にするものというイメージがありますが、実際は移住相談者の7割超が40代以下となっています。年代別にみると山梨は60代以上の人気が全国でトップですが、30代と40代も2位となっており、子育て世代にも人気があります。



NPO法人ふるさと回帰支援センター調べ



山梨中銀経営コンサルティング(株) 経済調査部長 岡本 新一 さん

## 世界トップを誇る 健康寿命の長さ

厚生労働省が今年3月9日に公表し

移住人気の高さは、人口の社会増もたらすほか、子育て世代など若年層の移住が増えれば、人口の自然増にもつながります。また、人手不足に悩んでいる県内企業と移住者の上手なマッチングにより、産業が活性化していくこと、そして、移住者が外の目で山梨の魅力を見出すなど、地域の活性化といった面も大いに期待できます。このように、移住先として人気がある山梨は、大きな可能性を秘めていると感じます。

## 健康寿命上位5県

【男性】	(年齢)
山梨	72.31
愛知	72.15
静岡	72.15
千葉	71.93
石川	71.93

【女性】	(年齢)
山梨	75.49
静岡	75.43
愛知	75.30
群馬	75.25
栃木	75.14

平成22年・25年・28年の調査の平均値、小数点以下第3位を四捨五入  
出典：厚生労働省「健康日本21(第二次)推進専門委員会」資料

## 山梨の最大の武器は 極めて恵まれた立地条件



東京からわずか1時間半で、緑豊かな環境に

東京圏に隣接しているながらも世界遺産富士山をはじめ3千メートル級の山々が連なる風光明媚な山梨は、自然と共存した暮らしを楽しみながら、必要に応じて気軽に東京に行き来できる恵まれた立地にあります。この利便性の高さは、仕事と暮らしの両面にさまざまな可能性をもたらすと思います。例えば、東京への通勤、平日は東京、休日は山梨といった二地域居住も可能です。9年後にはリニア中央新幹線の開業により、県外への移動時間が大幅に短縮されます。また、ICT環境の充実によるテレワークやサテライトオフィスの普及に伴い、自分のライフスタイルにあった働き方の選択肢が広がっていくことも考えられます。こうした立地条件の良さを最大限生かしていくためには、今後、産学官など関係機関の連携を強化し「オール山梨」で取り組んでいく必要があり、山梨を担っていく若者の意見をしっかりと聞くことも大切です。

※健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと」をいいます。



# 産官の連携から生まれる 山梨の産業の活性化

県では、さまざまな分野で積極的に活動している県内事業者に対して、研究開発のサポートや技術支援などを行っています。また、交通の利便性の高さや恵まれた自然環境を強みとして、企業誘致にも力を入れています。こうした取り組みは、企業や経営者の新たなチャレンジを促すとともに、山梨の産業の活性化につながっています。

## 産業技術センターとの連携から自社の可能性を広げていく

### 藤精機株式会社(昭和町)

当社は創業以来50年、最新の加工

設備と高い技術力で金属加工を行い、先進的な製品を生み出してきました。金属加工の中でも精密板金事業とプレス事業の両方を手掛けているのが当社の特徴です。また、設計から加工、組立までを自社で担える強みもあり、さまざまな業界のニーズに応える金属加工製品を提供しています。ちよつと変わった仕事としては、重要文化財の銅葺き屋根の修復に携わったこともあります。

最近では、経済産業省が実施している、戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)に、山梨県産業技術センターとコンソーシアムを組む研究開発が採択されました。どのような研究開発かという点、燃料電池車の燃料となる水素を補給する水素ステーションで使われる高圧配管を、当社の



藤精機株式会社  
代表取締役 新藤 淳さん

溶接技術により安価に提供できるようにすることで、水素ステーションの普及を促進し、クリーンな社会の実現に貢献するというものです。今後は、センター、当社、それぞれの強みを生かし、互いに異なる領域を担って事業を進めていきます。こうした研究開発に挑戦することは、当社の技術革新につながりますし、産官が連携することで、企業の可能性がより広がると感じています。

### 藤精機株式会社の「女性が働く環境づくり」

結婚・出産などを経ても、仕事を続けてもらえるように、短時間正社員の制度を設け、女性が働きやすい環境を整えています。



また当社は、積極的に女性の正社員を雇用しています。「Made in Japan」の誇りを常に持つ「心のこもったものづくり」を追求している当社では「精密板金加工の分野などで、女性の繊細な感性が大いに生かされている」と思います。

## 関西方面からのアクセスの良さが決め手となり 山梨ビジネスパーク内に工場を新設

### 株式会社 光製袋工業所(中央市)

当社は、軟包材製袋会社として、食品を入れるパウチを中心に液体洗剤詰め替え用パウチなど、フィルムを用いた各種形態の袋の加工を行っています。数年前から関東の取引先様からの受注が増える中、京都本社を増築しようかとも思いましたが、取引先様からの要望もあり、関東近郊への工場新



株式会社 光製袋工業所  
代表取締役社長 田中 大介さん

### 自分の手で造ったものが 世界に羽ばたくことがうれしい

部署ごとに特徴がある仕事なので、基礎からしっかりと専門的な技術を習得する必要がありますが、初心者でも徐々に技術を身に付ける中で、ものづくりの喜びが感じられると思います。当社の技術力は「世界に誇れる」という自信があります。自分の手で造ったものが世界に羽ばたくというのはうれしいですし、大きなやりがいを感じています。



新人の女性社員に溶接技術を指導する佐藤さん(右)

板金事業生産部 佐藤 志保さん

## 東京から笛吹市に移住 就農支援制度を活用し、果樹農家へ

東京ではIT関連の会社に勤めていましたが、以前から農業に興味がありました。そんな中、東京・池袋で「新・農人フェア」という就農についての相談会が開催されるのを知り、両親の出身地として親しみがある山梨県のブースで話を聞きました。その時に「山梨で就農するなら果樹がいいですよ」と勧められたのです。そこでまず、山梨県の専門



ブドウ畑で誘引作業をする跡部さん。「時間を見つけて、山梨の温泉巡りをするのが楽しみです」



果樹農家経営  
跡部 祐一さん

学校・農業大学の農業体験研修で農業を体験し決意を固め、7年前に山梨に移住しました。移住後は、農業大学校での長期研修、地域の先進農家であるアグリマスターからの指導、研修手当といった就農支援制度をフル活用し、5年前に独立しました。独立後もアグリマスターの方が、地域とのつながりをつくってくれました。アグリマスターの存在はとても大きなものでした。

「果樹王国」といわれる山梨ですが、近年、農業人口が減っていると聞いています。なので、今は、「産地を守りたい」という思いでいっぱいです。これからは、より技術を高め、私が研修生を受け入れる立場となって、山梨の農業を支えてくれる担い手を育てていきたい、それが目標です。

設を考えました。万一機械が止まるようなアクシデントが起きた場合に、本社からベテラン技術者が一刻も早く到着できる距離であること、関東の取引先様へのアクセスが良いことを考慮して、利便性の高い山梨を新設先に決めました。さらに、中部横断自動車道の南部区間が全線開通すると静岡まで1時間ですし、リニア中央新幹線が開

業すれば、関西方面はぐっと近くなります。また、山梨は地形や気候が京都とよく似ていることもあり、とても親しみやすい雰囲気があります。

工場を新設するに当たり、県や市の方が頻繁に足を運んで、税制優遇や補助金などの支援制度について詳しく説明をしてくれました。とても心強かったです。おかげさまで、売り上げも順調に伸び、新設2年目



光製袋工業所で加工しているパウチ



調に伸び、新設2年目には、工場の増築や機械の増設を行うなど、山梨に工場を新設した成果は顕著に出ています。

現在、山梨工場には、25人勤務していて、そのうち20人が地元採用の正社員です。皆さんとても真面目で仕事熱心で頑張ってくれています。

# 起業を促進し、夢の実現をサポート

起業は、経済の活性化はもとより、地域に根差した新しい事業の創出や定住人口の確保につながります。そこで県では、産学官など関係機関の連携により、起業家を育成することを目的としたビジネスアイデアコンペ「Mt.Fujiイノベーションキャンプ」や、起業を志す女性や起業して間もない女性を対象とした「女性の起業支援事業」を実施しています。

## 「起業するなら山梨だよね」と言われたい

「Mt.Fujiイノベーションキャンプ」は、県のイノベーションシヨムナージャーである、シナプテック(株)代表取締役の戸田達昭氏と共に、産学官など関係機関が連携して、平成26年度から毎年実施しています。県内での事業化、または県内の地域資源の活用を条件にビジネスプランを募集、合宿形式で専門家のアドバイスによりプランをブラッシュアップし、最終日にはコンペを行います。本事業の特徴は、「協創パ-

トナー」として大企業が参画してくれていること、キャンプ終了後もきめ細かな支援が受けられることです。起業しても事業の継続が非常に難しいといわれる中、このキャンプ参加者による起業17件、新規事業23件の全てが今も存続しています。これは何より素晴らしい成果です。



新事業・経営革新支援課 齊藤 浩志 主査

一方、「女性の起業支援事業」はNPO法人Dond Place(ポンド・プレイス)と共に、プロジェクト名「CO+SHEGOTO(コーシゴト)」として平成28年度からスタートしました。結婚・出産などのライフイベントとの両立が課題の女性にとつて、本来の力を生かす支援とはどうあるべきかを考え、事業を実施しています。参加者同士のより良い関係性を築くことや、参加者自身のぶれない軸をつくりあげingことを大切にするとともに、託

参加者募集中!

Mt.Fuji イノベーションキャンプ 2018  
イノベーションキャンプ 山梨

CO+SHEGOTO 2018  
女性の起業を応援するプロジェクト  
コーシゴト 山梨



Mt.Fujiイノベーションキャンプ



女性の起業を応援するプロジェクト「CO+SHEGOTO」

## 日本ワイン発祥の地、山梨で世界に通用するワインを造りたい

児サービスを提供するなど参加者に寄り添った運営を心掛けています。ワークショップ、経営ノウハウ習得のための講座、先輩起業家の現場見学会などを通じ、「なりたいたい自分」をつくりあげ、さまざまなネットワークを広げることにより、参加者の夢の実現を支

援しています。山梨に起業家を生み出す風土を根付かせるためには、県を挙げて起業の機運を高めることが重要です。山梨らしい起業・創業支援の仕組みを構築し「起業するなら山梨だよね」と言われることを目指しています。

ワインのインポーターとして世界のワインを取り扱っていた私が、造り手への転身を機に心に決めたことは、日本がカリフォルニアやニュージーランドに並ぶ新たなワイン産地であることを世界に認めてもらうこと。8年前、日本ワイン発祥の地である山梨でワイン造りに挑戦したいと思い、大阪から山梨に移住しました。当時、山梨のワイナリーを見て



ドメーヌ・デ・テンゲイジ 代表 天花寺 弓子さん

## 家族との時間を大切にしながらできる仕事 起業は女性の働き方のひとつ

結婚前からエステなど美容に関わる仕事をしてきました。しかし、結婚すると女性を取り巻く環境は大きく変化します。知らない土地に来て出産と育児を繰り返す中で、好きな仕事ができなくなってきたことにもストレスを感じ、病気になるってしまっただけです。入院中に看護師さんが痛みがひどい私の体をさすってくれたり、友人がマッサージをしてくれたりしました。人に触ってもらうことで安心感を得て、気持ちが楽になっていった私は、自分がやってきた仕事は人を



エステをする仕事場は、子どもたちと一緒に改装した自宅の一室。「美容の仕事を通して人をケアしていきたい」という志田さんは、福祉施設などへも出向いている



ナチュラルビューティースクールSmily  
代表 志田 さおりさん



助けられる仕事なんだと気付いたんです。そして、退院後半年で起業しました。こんなに早く起業したのは、悔いのない人生を歩みたいという思いがあったからです。

起業して3年後「CO+SHEGOTO」に参加しました。そこで仲間ができたことでさらに頑張る気持ちが高まりましたし、金融機関や行政からの支援についての情報を得ることもできました。起業には人とのつながりがとても大切だということも学びました。

私は、今も家族との時間を最優先にしながら仕事をしたと考えるています。起業したからこそ、大切なものを守りながら、仕事ができます。女性の働き方として起業というののひとつの選択肢だと思っています。

回って、地元のおいしいちゃんやおばあちゃん、二升瓶ワインを湯飲みで飲みながら肉じゃがを食べている姿を見て「山梨にも小さなフランスがあるんだ」と感銘を受けたことを覚えています。

その後、山梨大学大学院で醸造を学び、県や地域の皆さんなどに力を貸していただきながらブドウ栽培を始めました。平成28年度にはイノベーションキャンパスに参加し、「耕作放棄地にワイナリーを作り、世界基準のワインを作りたい！」をテーマにコンペに臨み、始動部門で最優秀賞を受賞しました。ワインと



後ろに広がるのは、明野のほ場。もとは耕作放棄地だった。このほかに、農家の高齢化により管理できなくなった韮崎のブドウ畑を受け継ぎ、栽培している



ラベルには、マスコットのラビットとブドウ、明野のほ場から見える風景が描かれている

は全く異なる分野で活躍する多くの方々と出会うことができ、新たな発想を生み出す原動力になっています。昨年の秋には、念願のワイナリー「ドメーヌ・デ・テンゲイジ」もオープンしました。

これからの目標は、日本の固有品種で世界に通用するワインを造ることです。山梨特産の白ワイン用ブドウ「甲州」は近年世界で評価されていますが、赤ワイン用ブドウ「マスカット・ベリーA」はまだまだ世界に知られていません。大学院の時の研究対象でもあり、愛着ある特別なブドウなので、世界にチャレンジしていきたいですね。

好きなことを仕事にするのは苦しいこともあります。信念とこだわりがあれば分かってくれる人が必ずいます。私も初心を忘れず、ぶれることなく、頑張っていきたいと思っています。